

厚生労働省職員との懇談会

行政の説明を生の声で

11月13日に協会会議室で、厚生労働省職員との懇談会を開催、伊賀幹二先生(西宮市・伊賀内科・循環器科)の司会進行で、12人が参加した。参加者の半田伸夫先生の感想文を掲載する。

一般的に厚生労働省は、現場の医療職はもうけ主義第一で、保険審査もふくめて常に管理すべき対象と考えているのではないかと、反対に現場の医療職は、厚生労働省は経済的理由と自身の保身しか考えていないのではないかと、という相互不信があるように思われる。そのことを確かめる目的で本年5月に2010年診療報酬改定にかかわった健康局医療課長補



忌憚のない意見交換によりお互いの理解を深めあう場となった

佐と少数の協会会員と懇談会を行った。その結果はお互いの理念に大きな差はなく、理解しあうことで良い関係が生まれると思われた。そこで、今回は20名弱の会員に参列していただき、現在は地方で勤務している元健康局医療課長補佐をお招きして、忌憚のない議論をおこなった。

司会の伊賀幹二先生より、①インフルエンザ行政、②高額レセプト医師の指導、③ジェネリック医薬品政策、④DPC医療機関の複数診療科受診の際の問題、⑤地域貢献献算、⑥5分間ルールの問題などの問題提起がなされた。また婦人科会員よりHPVワクチン行政の光と影についても議題となった。医療者側からは保険点数改定や、種々の厚生行政などについての理念がない、妥当な説明がない、実際のでない、通達の徹底が図られていないとの意見があった。

元課長補佐からは、保険点数改定などについての作業スケジュールについての話があり、予算が決定してから、その中で優先順位をつけながら決めていくのどうしてもつじつま合わせの内容が出てくるのは否めないとの返事であった。

また、話題となった今年度のインフルエンザワクチン接種報告についての通達など、現場が理解しづらいことを県厚生担当や保健所に問い合わせても納得できない場合は、直接厚生労働省に問い合わせていただきたいとの話であった。医師会や保団連からの要望を挙げることの重要性も確認された。さらに、政治主導

会員忘年会 お世話になった方々と ざっくばらんに交流

12月29日、「木曾路」西宮店で、毎年恒例の会員忘年会を開催。Medical EnglishのRobert Conroy氏、医療過誤訴訟セミナーの鶴飼万貴子弁護士(大阪・米田泰邦法律事務所)、レセプト電子送信問題研究会の田中慎一氏、震災のつどいやClassic Lovers Concertで歌声を披露したソプラノ歌手の長谷川真弓氏など、日ごろより西宮・芦屋支部の企画でお世話になっている方々を含め、18人が参加した。

幸原久先生(芦屋市・幸原小児科・内科医院)からの乾杯の発声の後、参加者は一年間の支部活動や日常診療などについて、ざっくばらんに語り合い、森下敬司先生(西宮市・森下医院)の一年間を締めくくる挨拶で閉会した。



乾杯の発声を行う幸原先生

となっている昨今は旧来の経済理念以外の議論の入る余地が増えているという話もあった。

現場の医療の意見を行政に伝えること、行政の説明を通達ではなく、生の声で聞くことの重要性が示された懇談会であった。

【西宮市・半田医院 半田 伸夫】

世話人会だより

西宮・芦屋支部は11月26日に西宮医療会館で、12月24日に西宮中央公民館で世話人会を開催。それぞれ6人、5人が参加した。

【予定・企画】

- ① 英語で診療#28 (12・10)
- ② 会員忘年会 (12・29)
- ③ 民主党議員との懇談会 (1・16)
- ④ 日常診療ガイドライン (1・22)
- ⑤ 健康と医療について語り合う会 (1・29)
- ⑥ 第25回漢方研究会 (2・5)
- ⑦ 新規開業交流会 (3・5)
- ⑧ 第26回在宅医療研究会 (3・12)
- ⑨ 第16回医療過誤訴訟セミナー (3・19)
- ⑩ 第31回支部総会 (7・23)
- ⑪ 西宮・芦屋支部設立30周年企画

※世話人会の日程は毎月第4金曜日です。支部についてのご意見や企画案などをお寄せください。

新規開業医交流会

日時：3月5日(土) 17時30分～20時
 会場：ホテル竹園芦屋 ※JR「芦屋駅」改札北側
 テーマ：「患者さんに好感をもたれる医院づくり」
 講師：株式会社日本医業総研 田中 徳一 氏
 定員：20人 事前申込制・開業3年以内の先生優先
 参加費：無料 (講演後の懇親会参加費を含む)

※お問い合わせは 事務局 岡林・山田・伊藤まで Tel:078-393-1817